



清流 news

〒191-8686 東京都日野市神明1-12-1

Tel 042-514-8309

発行日 1月・4月・7月・10月

Vol. 117

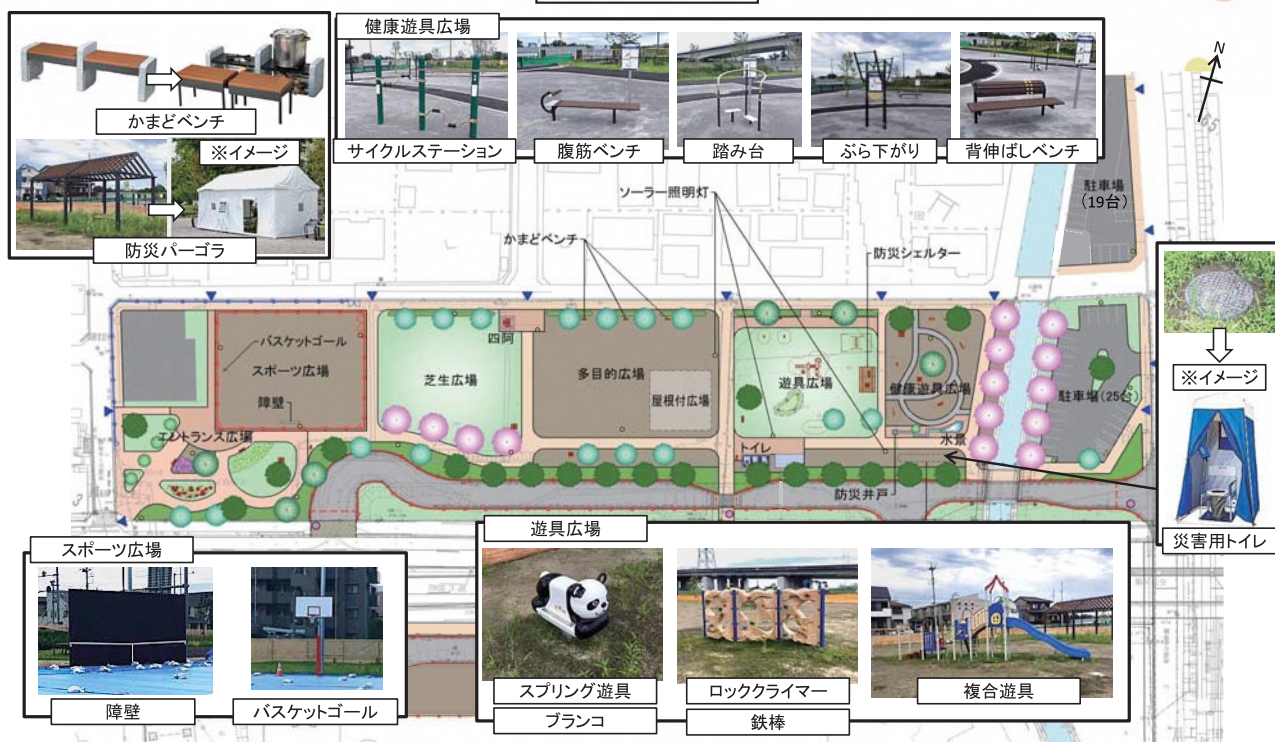
発行
日野市
環境共生部
緑と清流課

北川原公園が開園しました!!

平成30年9月1日、石田大橋の付近の国道20号バイパス南側に北川原公園が開園しました。公園の面積は約14,000㎡あり、近年開園した公園の中でも一番大きい公園となります。

地元自治会との意見交換会を行い、幅広いご意見・ご提案を頂き、頂いた意見をもとに様々な年代、いろいろな人の利用の仕方ができる公園、防災・バリアフリー・環境に配慮した公園、レクリエーション・安全安心・憩いとなる公園を目指して整備を行いました。

公園案内図



◆公園概要

開園 平成30年9月1日

所在地 日野市万願寺2-350-3外

◆駐車場有

第一駐車場(北側) 19台

第二駐車場(南側) 25台(うち1台は障害者用駐車場)

料金 入庫～15分 無料

15分～60分 100円

以降1時間ごと 100円

(最大料金なし)



スポーツ広場

市内の公園3か所目となるバスケットゴールと、日野市初の障壁（テニスの壁打ち）を設置しています。



芝生広場

広い芝生の広場です。障害物がないので走り回ったり、芝生の上で休憩したり、様々な方法で利用していただけます。



多目的広場

白い大きな屋根つき広場が目印の広場です。雨の日でも屋根の下で遊ぶことができます。



遊具広場

ブランコ、鉄棒、すべりだいの複合遊具、スプリング遊具、ロッククライマーが設置されています。

ロッククライマーは市内の公園の中では初めての設置となります。

定番の遊具から、珍しい遊具まで様々な遊具が設置されているので、ぜひ多くの方に遊んでもらいたいと考えています。



健康遊具広場

おとな向けの健康遊具を設置している広場です。

サイクルステーション、腹筋ベンチ、踏み台昇降、ぶら下がり、背伸ばしベンチの5種類を設置しています。

体力をつけたい！という方はサイクルステーションや腹筋ベンチで体力づくりという使い方や、ウォーキングや散歩の途中で息つきながら背伸ばしベンチやぶら下がりでストレッチ…という使い方など、自分の体力や好みに合わせて健康遊具で運動が行えます。



◆防災面 北川原公園は防災面にも配慮した公園です。

多目的広場には「かまどベンチ」を設置しています。ベンチの座面を外すと、煮炊きのできるかまどとして使用することができます。

遊具広場の「パーゴラ」は、非常時に幕をかぶせることで、防災シェルター（テント）として利用することができます。

トイレの東側には「マンホールトイレ」と「防災井戸」を設置しています。

マンホールトイレとは、非常時にマンホールのふたを開け、一人用 TENT を張ることで、個室のトイレになるものです。防災井戸はポンプのハンドルを動かすことで、地下水をくみ上げることができます。災害時に水道から水が出ない、という場合に水をくみ上げマンホールトイレを使用した際の水などとして使用することができます。通常時でも、水遊びの水として使用していただけます。飲料水として飲むことはできないのでその点についてはご注意ください。

北川原公園開園式を開催しました。

9月1日に北川原公園の開園式を開催いたしました。国会議員、都議会議員、市議会議員の皆様や、近隣の4つの自治会の皆様など多くの皆様にお越しいただきました。

多目的広場の南側に「小彼岸桜（こひがんざくら）」の記念植樹をしました。

ソメイヨシノよりすこし早い時期に、やや濃いめのピンク色の花を咲かせます。来年の春、ぜひ見にいらしてください。



「水の郷日野ビジョン450」 設立シンポジウム ～日野用水開削450周年記念シンポジウム「共同宣言」実現に向けて～

去る、9月8日新町交流センターにてシンポジウムを開催いたしました。午前の部は小坂克信氏による座学「もっと知りたい日野用水」及び、既に準備会として活動しているプロジェクトチームによる報告を行いました。午後の部は現地探索「歩こう日野用水」で、日野用水上流を詳しく見て歩きました。

このシンポジウムにより、水の郷日野ビジョン450が立ち上がり、今後は共同宣言を皆の力で実現すべく、水の郷日野を次世代に引き継いでいきます。



10月は
日野市環境月間です

つなぐ！水と緑をまもるまち ひの

日野市は河川、用水、湧水などの水域が約15%を占め、市の北側を多摩川、市の中心を浅川が流れております。また、日野台地の崖線と多摩丘陵方面には豊かな緑が残されています。程久保川や豊富な湧き水もあり、「水の郷 日野」にふさわしい財産です。

この多くの資源が田畑を潤し、数多くの生きものを育む場所です。人々が憩いの場として親しんだり、子どもたちが魚とりや虫取りなどで楽しんだりすることも多いはず。豊かな自然は、四季折々の美しい景観を生み、豊かな心を育てます。

平成30年度の環境月間は「つなぐ！水と緑をまもるまち ひの」をテーマに、日野市に生息する生きものや水と緑といった自然を知っていただくため、さまざまな催しを企画しています。身近な生きものと共生できる日野の豊かな自然を大切にしていきたいと思います。

緑と清流ポスター展 市内の小・中学生たちが、水辺や緑をテーマに描いたポスターを展示します。

【日 時】・10月1日(月)～10月12日(金)〈小学生の部の作品〉
・10月15日(月)～10月26日(金)〈中学生の部の作品〉

【場 所】本庁舎1階 ※日曜・祝日を除く



日野第三中学校
3年 太田 琴美

中学生の部
最優秀作品



日野第五小学校
6年 小林 葉瑠

小学生の部
最優秀作品

緑と清流ポスターのその他の入選作品は、4・5頁にてご紹介します

ミニ水族館

市内の用水や河川に生息する魚や、生きものを展示します。



【日 時】10月1日(月)～10月26日(金)
午前8時30分～午後5時15分
※日曜・祝日を除く

日野用水クリーンデー

日野用水上堰の東光寺から日野駅までの区間を、地元自治会・用水組合の協力をいただいて、用水路に捨てられたごみを清掃します。皆で協力して清流を守りましょう。

【日 時】10月21日(日) 午前10時～11時

【集 合】午前9時45分

【集合場所】①よそう森公園(新町郵便局そば)
②栄町4丁目バス停付近
③新町1丁目22番地先(月極駐車場付近)

スター

平成30年度日野市環境月間の行事として、市内の小・中学校の子どもたちから応募のありました1,294点から選ばれた作品です。身のまわりの水辺や緑への子どもたちの思いが描かれています。



豊田小学校6年 田中 紗葵



日野第三小学校6年 嶋田 結愛



日野第八小学校6年 高橋 芽花



日野第八小学校6年 村田 颯哉



日野第五小学校6年 西澤 遼人



日野第八小学校6年 鬼頭 淳拓



日野第八小学校6年 中島 梨乃



滝合小学校6年 藤本 章太郎



南平小学校6年 高橋 幸文



東光寺小学校6年 廣瀬 結菜



東光寺小学校6年 松田 綾香



仲田小学校5年 竹中 美優



仲田小学校5年 三塚 小街



仲田小学校5年 菱山 言芽

小学生の部
優秀作品

平成30年度

緑と清流水

中学生の部 優秀作品



日野第三中学校3年 池内 亮次



日野第三中学校3年 石附 明日香



日野第三中学校3年 大橋 結太



三沢中学校1年 石川 真実



日野第二中学校2年 津留 優希



日野第三中学校3年 佐藤 香鈴



日野第三中学校3年 田附 紗夕



三沢中学校2年 松田 藍々



大坂上中学校2年 追川 優



七生中学校3年 大石 若奈



平山中学校2年 鬼武 南沙妃



大坂上中学校2年 木口 莉夢



七生中学校3年 小林 広奈



平山中学校2年 伊藤 誠基

東豊田緑地保全地域の区域の拡張

日野市のほぼ中央部に位置し、日野台地の東南端の段丘上で、既指定地に隣接する日野市多摩平七丁目の樹林地2,732㎡について、東豊田緑地保全地域の区域の拡張に関する告示が、平成30年5月24日付東京都告示第七百六十一号にて行われ、東豊田緑地保全地域が60,079㎡から62,811㎡に拡張されました。

今回拡張指定された樹林地は、既指定地と連続する緑地の一部で、連担して良好な樹林を保っている貴重な自然地であり、希少種の生息・生育もみられる。

また、地域内には「東京の名湧水57選」に指定された豊かな湧水地が存在しており、この湧水地と密接に関連する当該緑地を保全地域として守っていくことで、多くの市民が水と緑に触れ合える場を確保するとともに、地域の生物多様性の保全を更に進めることができる等の理由により、東豊田緑地保全地域の区域の拡張が行われました。



◀上の写真が拡張された2箇所のうち面積の大きい箇所。
下の写真は小さい箇所。



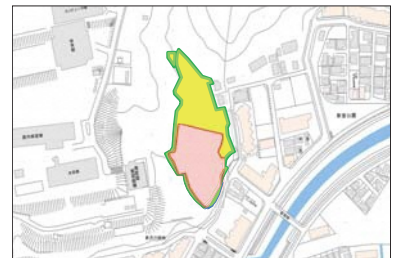
新葉山緑地用地取得について

名称 新葉山緑地（これまでは「真堂が谷戸」（しんどうがやと）、「仁王塚南緑地（におうづかみなみりょくち）」と呼んでいましたが、都市計画決定中の名称である新葉山緑地（にいばさんりょくち）と表記します。）

対象地の地番、面積 日野市百草617番1 3,509.17㎡

対象地について 新葉山緑地は、日野市の東部に位置し、隣接する市有地を含め、日野市みどりの基本計画において緑地保全重点地区に位置づけられ、現在においても良好な緑地帯を形成している。又、付近には日野市内でも数少ない蛍の発生場所である。

新葉山緑地の一部について、既に寄付により日野市が用地取得しましたが、平成28年に日野市土地開発公社により先行取得した用地、日野市百草617番1、面積3,509.7㎡について、平成30年度買戻す予定です。



凡 例	
都市計画決定区域	
既取得地	
平成30年度取得予定地	



日野市の東部に位置し、付近は市内では数少ないホタルの生息地であり、自然豊かな緑地である。

この社の主神今熊大権現は、もと修験（山伏）となった地元の平佐十郎氏（明治10年没）が、幕末の頃、川口（八王子市）の奥山に鎮座する今熊大権現を勧請（神仏の分霊招じ迎える）したのがはじまりのようで、近郷近在の崇敬信者に支えられ、今熊信仰の道場として栄



(C) 2017 PASCO CORPORATION.
(C) 2017 INCREMENT P CORPORATION.
いかなる形式においても著作権者に無断でこの地図の全部または一部を複製し、利用することを固く禁じます。

●今熊公園（街区公園104）
所在地・南平3-15-15/面積・517㎡/開園日・昭和59年11月1日
この公園の南方一帯が多摩丘陵に続く雑木林だった頃、その麓に近い尾根上に、一小社が祭られていた。祭神は今熊大権現（主神）、厳島弁財天、子ノ権現の三尊で七生村史によると、昭和7年3月28日改築、遷宮されたものとなる。旧社殿はすでに朽廃である。旧社殿はすでに朽廃である。

えたと伝えられる。
前記川口の本山は、紀州熊野信仰の流れを汲み、その山号「関東呼山（よばありやま）」の示すように、世に謂われる神隠（子供などのゆくえが急にわからなくなる）や家出人の呼び戻し、足止めに重験あらたかであることから、その信仰圏は地元に近い西多摩を中心に、多摩一円から全国的に広がり、この信仰のメッ





自噴井戸の様子



ビオトープ

③七生中学校の自噴井
生き物をはぐくむ水辺
七生中学校は屋内体育館の裏手に一日3,000㎡の地下水が自噴しています。その勢いは地上30cmもの高さまで噴き上げています。
昭和39(1964)年にプール用に掘られた深井戸(約80m)ですが、水温が低すぎる

みず
くらし
まち
水辺のある風景
日野50選

水辺のある風景 日野50選 選ばれた水辺を紹介します

ためそのまま浅川に放流しました。河川敷を下流に向かって緩勾配の水路が作られ、そして魚が遡上できるようにしました。その結果、水路には小魚やザリガニが生息しています。子供たちの良い遊び場になっています。

その後平成14(2002)年この豊富な水源を利用して校内にビオトープ(水辺の生物生息空間)が整備されました。

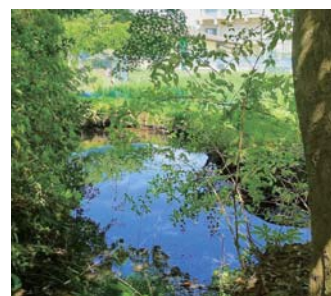
④学校農園・ビオトープ 命を学ぶ水辺 南平小学校

田んぼの横にはビオトープ(水辺の生物生息空間)があり水生生物やプランクトン、小魚、昆虫などが一つながりの生態系であり食物連鎖を維持していること、そこから自然環境のシステムを学んでいます。この様な自然の中での毎日が学校生活の一日に生かされています。

また校内には田んぼがあります。田んぼにはいろいろな小動物や生物がたくさん生き



運動場の一角にある田んぼ



ビオトープ

ています。また地元農家さんの支援を受けて、田植えから稲刈りの収穫までを一環して総合学習として実施しています。収穫後は精米されたコメを学内の食堂で炊飯しおにぎりを作り地元の人と一緒に頂いています。

すぐ南側には南平用水が流れています。水深が浅く、ポンプアップした地下水をビオトープに貯めて田んぼの水を賄っています。

「第3回 浅川アユまつり」を開催いたしました！

去る8月12日(日)に浅川ふれあい橋付近にて「第3回浅川アユまつり」を開催いたしました。日野市には市域の北側を多摩川、中央には浅川が流れ、これらを水源とする用水路が総延長

116kmを越えて伸び、古くから人々のくらしに「水」が大きくかかわってきました。

このイベントは、参加者が、川に触れることで、水辺環境や生物多様性の恵みについて考える機会とし、より多くの人々が日野市の水辺の魅力に気付き、親しんでいただくことを目的として、東京都内水面漁業環境活用施設整備事業補助金を活用して実施いたしました。

また、「自然環境の保全」という大きな方向性を共有する日野市と多摩川漁業協同組合日野支部が連携して、事業を展開することで環境保全の推進と漁協の振興を図ることもねらいとしております。

イベントの内容については、多摩川漁業協同組合日野支部の協力のもと、ピストン釣りやつかみ捕り、伝統漁法の披露やアユ等の伝統料理の試食会を行ったほか、今年はガサガサ教室やわくわくフィッシングなど、子供が楽しめるイベントを増やして来場者の皆様にご好評いただきました。

連日雨が続く中、当日については天候にも恵まれ、参加人数も昨年以上回る約9,000人と多くの方にご来場いただき、大盛況となりました。

日野の豊かな水辺環境を存分に活用し、PRすることができるこのアユまつりは、「水の郷」と呼ぶにふさわしい日野市ならではのイベントであり、今後も漁業振興の一助となるよう実施して行きたいと考えております。





ガビチョウの謎

〈ふるさと中国南部〉

日野市でよく見られるようになった鳥として、ガビチョウを取り上げます。2012年の連載では、南平での野鳥の調査を紹介して「外来種、ガビチョウは2002年6月に初めて記録されてから増加傾向にあり、同じく外来種であるコジュケイは08年以後は記録がない」と書きました。本来は中国南部などに分布するガビチョウは、よくさえずることから飼育鳥として輸入されていた時代がありました。声が大きいためか、日本では飼育鳥としては定着しなかった一方で、逃げ出したものが野生化し、繁殖もするようになってきました。九州から本



さえずるガビチョウ：日本の野鳥は夏にさえずりを終えるが、ガビチョウは秋でもさえずっている。

〈見る機会が増えた？〉

州の太平洋側で分布を広げ、今や、日本海側や東北南部でも観察されています。自然環境に変化があると、外来種が増え、在来種が減るような事態もあります。ガビチョウの場合は、同じように低い茂みを好むウグイスに影響があるのではないかと心配する声もあります。まだ、どんな影響が生じているかはわかっていませんが、ガビチョウを目にする機会は増えました。藪の中を好み、姿を見せることは稀だったはずですが、数が増えて個体密度が高まることで、生息環境が広がって

〈頭の掻き方は？〉

いるのかも知れません。

鳥の頭の掻き方に二通りあることを教えてくれたのは、日野市民だった、故高野伸二です。鳥は羽毛の手入れを欠かしません。手入れは嘴を使いますが、細かい羽毛がたくさん生えている頭部は、足を持ち上げて爪を使います。その際、普通に足を上げるキジ、カモ、ハトの仲間の場合は「直接頭掻き」と呼ばれ、下げた翼の間から足を出す小鳥の場合は「翼越し頭掻き」と呼ばれます。調べてみたら、スズメ科もムクドリ科も、カラス科さえも、スズメ目というグループに分類される鳥はほとんど「翼越し」でした。ところが、ガビチョウやソウシチョウが属するチメドリ科とアメリカ産のアメリカムシクイ科は、小鳥の例外で「直接頭かき」をするらしいという噂を聞かされました。知人に飼育下のガビチョウを観察しても、うは噂通り、直接、頭を

掻いたそうです。

ところが、ところが：家族で高幡不動にお参りに行った際、茂みの奥の水溜りで見つけたガビチョウを見つけた。水浴び後に3回も頭を掻いてくれたのですが、なんと、3回とも「翼越し頭掻き」でした。チメドリ科も他の小鳥と同じように「翼越し」なのだろうか？ あるいはガビチョウがチメドリ科の例外なのだろうか？ はたまた、「翼越し」でも「直接」でも頭を掻く、両刀遣いなのだろうか？

文 (公財)日本野鳥の会
主席研究員 安西英明
写真 金子精一



翼越し頭掻きをするムクドリ：日本の小鳥の頭掻きは「翼越し」のはず。例外はヨシキリ科のオオヨシキリで、「翼越し」「直接」も見られる。

特別展開催



日野市は、水辺や丘陵など多様な自然環境に恵まれ、身近な場所です。野鳥に出会うことができます。

郷土資料館は、この秋から鳥についての展示を市内3か所で開催します。鳥の写真や標本のほか、餌となる昆虫、鳥の足跡化石、鵜飼漁関連資料など展示します。また、「みどりの翼」で取り上げた外来種や、多くの図鑑を残した高野伸二氏も紹介します。鳥をテーマに人と自然との関わりを考え、生き物や自然環境の大切さを伝えます。ぜひお出かけください。

◎会場・会期など

①郷土資料館

10月6日(土)～12月9日(日)

②平山季重ふれあい館

12月22日(土)～3月3日(日)

③カワセミハウス

3月6日(水)～3月15日(金)

休館日・時間など詳しくはお問い合わせください。講演会や見学会も開催します。

問合せ【郷土資料館

042-592-0981】